

ブロック別指導医講習会の実施報告

今回は、「関東甲信越静ブロック」と「九州ブロック」で実施されました「社会医学系専門医指導医講習会」についてご報告します。

令和7年7月11日、関東甲信越静ブロック保健所連携推進会議に合わせて「社会医学系専門医指導医講習会（関東甲信越静ブロック）」が開催されました。
座長・記録：神奈川県平塚保健所 大久保 久美子 所長



講師

【香川県中讃保健所】

保健所長

横山 勝教



今回は現地開催で、参加者数は保健所連携推進会議64名、指導医講習会58名でした。

指導医講習会は、香川県中讃保健所の横山勝教所長をお招きして、「指導力アップ！専攻医・部下が育つ『対話型フィードバック』」をテーマに、①専門研修プログラム整備基準と指導医マニュアルのおさらい、②対話型フィードバック（座学）の講話の後、③対話型フィードバック技法（実践）という構成でご講演いただきました。

「フィードバック」は、昨年度実施した指導医ニーズ調査において、要望が多かったテーマです。フィードバック技法とは、A(appreciation)、C(Coaching)、E(Evaluation)を実践する方法です。コーチングする際の留意点として「私の方が上だという気持ち」は相手の話を聞くことを妨げること、また無意識に性差別をするというバイアスに注意することを挙げてくださいました。

フィードバックの極意をお聞きした後で、対話型フィードバック技法（実践）に移りました。まず2人一組になって指導する側と指導を受ける側に分かれて、8分間で対話型フィードバックを行い、その後立場を交代して同様に8分間対話型フィードバックを実施しました。会場は、皆さんの熱のこもった対話で大変盛り上がりました。指導する側、される側両方の立場を経験することで、対話型フィードバックの良さを実感する機会になったのではないのでしょうか。

最後に、横山先生からは、専攻医に対してアドバイスをしなければとか、正解をださなければと身構えなくてよいとのアドバイスをいただきました。横山先生のご講演をお聞きして、より良いフィードバックをするためには、まずは専攻医の話を聞いて、そして対話することが重要なのだと理解することができました。具体的な実践方法も学ぶことができて大変勉強になりました。

令和7年8月7日、九州ブロック保健所連携推進会議に合わせて
「社会医学系専門医協会指導医講習会（九州ブロック）」が開催されました。
記録：鹿児島県西之表保健所 亀之園 明 所長

社会医学系専門医制度の意義

1. 人材育成
集団や社会の健康を守る社会医学に関して
リーダーシップを発揮する専門医を養成する
2. 人材確保
若い医師における専門医取得ニーズの高まり
3. アイデンティティの確立
制度上の正式な資格として追加されたこと

講師

【長崎県県央保健所】

保健所長

宗 陽子 先生



今年度の保健所連記絵推進会議（九州ブロック）は鹿児島県でハイブリッド開催され、参加者数は保健所連携推進会議52名（現地参加31名、オンライン参加21名）、指導医講習会49名（現地参加27名、オンライン参加22名）でした。今回の指導医講習会では「社会医学系専門医制度について」の講話に加え、フィードバックの技法に関する講話がありました。

まずは、「社会医学系専門医制度の意義」として「人材育成」「人材確保」「アイデンティティの確立」が挙げられました。専門医取得は、医師のキャリア形成だけでなく、医療機関の信頼性や地域医療の質向上に直結するため若い医師においてニーズが高まっており人材を確保する観点で重要です。社会医学系専門医取得のメリットとしては、キャリアの選択肢が広がる、専門医の証明と信頼性の向上、他の専門医資格との両立が可能などが挙げられます。また、昨年の医師法施行規則の一部を改正する省令にて、業務従事状況の報告様式において「主たる業務内容」の欄に「公衆衛生業務」が追加されるとともに、広告可能な資格名に「社会医学系専門医」が追加されました。

社会医学系専門医制度は、個の力もシステムの力も次第に向上させていくことが主目的であり、生涯学習と若手訓練の機会の充実（継続的資質向上）がねらいです。

次に、香川県中讃保健所の横山勝教所長が作成された「フィードバック技法を学ぶ」の資料を基に講話がありました。従来のフィードバックは一方通行であったのに対し、新しいフィードバックは対話（双方向）により、ACE（A: Appreciate, C: Coaching, E: Evaluation）を育てることに重点が置かれています。フィードバックする時は、「感謝を伝える」「あなたが観察したことを述べる」「その結果や影響について具体的に述べる」「相手の話を聞いて、さらに詳しく教えてもらう」「安心感を与える」「次のステップを確認する」というすべてを含めることが必要ということでした。

このようなことを念頭に置き、良いフィードバックができるようになれば指導医と専攻医の資質向上につながると考えられます。

ご報告の作成と座長を務めていただいた大久保久美子所長及び講師を務めていただいた横山勝教所長ありがとうございました。また、ご報告の作成をいただきました亀之園明所長ありがとうございました。引き続きZENHO通信をよろしくお願いいたします。

発行責任者：宗 陽子（公衆衛生医師の確保と育成に関する委員会委員長）